



# リモリマンスリー

第八号



皆さん、こんにちは。町内の林業関係者で作る梶原令和の森林づくり協議会（通称リモリ）から『リモリマンスリー』で活動内容をお知らせします。今号では新年の挨拶を申し上げます。

## 梶原令和の森林づくり協議会 ReMORI（リモリ）

会長 笹岡高志

森林の文化創造推進課とほぼ同時に立ち上がった協議会リモリが、3度目の初春を迎えました。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

ことしは卯年ですが、リモリは昨年一足早く「小さく一歩」跳ねたように感じます。それは協力隊員が2名から6名へ一挙に増えたこと、更に彼らが地植え・植え付けの育林事業に「自主的」な取り組みを始めてくれたことに起因します。それを森林組合の若い職員がサポートしてくれたことも嬉しく感じました。

年末に森林の文化創造推進課の立道課長と年間総括の時間をもちました。課長の表現では、梶原令和の森林づくりは「3合目」を登っています。スタート前に実施した町民アンケートで、一定数の人たちが「広葉樹の広がり」を期待していることが分かった。それを受けて、今までになかったイベントを始めました。テレビ塔の南東斜面や太郎川公園内の人の目に触れ易い場所に、親子でサクラなどの広葉樹を植えました。4月末の協働の森づくり事業も皆伐地に場所を移し、植林作業に衣替えしました。町民の皆さんの参加も多くなり、将来のイメージを少し共有できるようなったのではないのでしょうか。

暮れの役員会で、川上周一副会長から、次の発言がありました。「かつて古老から聞いた。スギ・ヒノキは山の中腹まで、その上は雑木を残す。山づくりの基本。今後はそうありたい」と。山の中腹から上部にシイやカシ類が多ければ、ドングリの実が動物の餌になり、生物多様性にも繋がります。一方で、スギ・ヒノキ（経済林）の再造林も続け、林業の生業をしつかり回してゆくことも大事です。

同じ会議で立道課長から「当初計画は5年少し担い手20人の確保でした。もう少しピッチを上げないと」と発言がありました。課長は引き続き気合が入っています。

卯年は更に大きく跳ねたい！

ことしは協力隊員の第1号で青森県出身の角金玄さんが、6月未だで3年間の任期を終えます。当初は体力的に厳しかったと聞きましたが、1年を過ぎる頃には胸板が厚くなり、体つきが変わりました。招聘した樹木医グループに刺激を受け、コモリの仲間に入って活動する中で、特殊伐採に興味とやり甲斐を感じたようです。遠方の研修にも参加し、資格も取りました。また、後輩隊員への気遣いも充分に果たしてくれています。その彼がしつかり梶原に定住できるようサポートすること。これが今年のリモリの大きな仕事です。

協力隊の1月予定表を見ると13日に東京で「梶原町未来の森林づくりカンファレンス」が予定され、4名の隊員が参加します。矢崎総業やモアツリズなど梶原町と協働の森づくり等に取組んできた環境先進企業や団体に若い人たちが直接「梶原の新しい動き」を伝えてくれることになりました。参会の皆さんはきっと新鮮な感覚で報告に耳を傾けてくれるでしょう。続く14、15日には同じ東京で「移住・交流フェア」が開催されます。4人は「梶原はいいよ！」と大いに勧誘してくれるはずです。

1月4日に未来館大ホールで開かれた「仕事始め式」で、吉田町長は次の様に呼びかけました。「梶原町は昨年4国で唯一の脱炭素先行地域に認定されました。太郎川公園にバイオマス発電所を建設し、発電に加えて熱利用の計画を進めます。ペレットを増産し、再造林も含めた森林の循環に取り組みたい。皆さんの協力をお願いします」と。

卯の年に大きく跳ねるため、協力隊員が立ち上げた「キリカブ」、若手と中堅の担い手「コモリ」、そして高齢者の「リモリ」に、本年も一層の力を添えを賜りますよう、よろしくお願いたします。



▲支障木伐採の風景

## 梶原町若手林業研究会

COMORI（「コモリ」）  
会長 谷田真吾

謹んで新春のお慶び申し上げます。昨年末の大雪により、久しぶりに梶原らしいお正月を迎えました。一方、高知市では観測史上1位を記録する程の積雪で、一面の銀世界に目を奪われる余裕も無く、慣れない積雪に大混乱を極め、文字通り記録にも記憶にも残る大雪になりました。

さて、我がコモリの昨年は、民家に倒木の危険のある支障木の伐採を始め、森林イベントへの参加やメディアへの出演、他団体との交流など、多方面に渡り活動を行うことが出来ました。

支障木の伐採では、ツリークライミングの技術を駆使して行ったり、ラフトレーンクレーンという大型特殊自動車を使用して行うなど、現場に応じた伐採を重ねる事により、仲間のスキルが確実にアップしています。

また可能であれば活動後には反省会と称した慰労会を開催します。森を通じて、コミュニケーションをとる。コモリの本領発揮です。本年も宜しくお願いいたします。

## ゆすはら地域おこし協力隊

角金玄

リモリマンスリーをご覧の皆さま、新年、明けましておめでとございます。ゆすはら地域おこし協力隊の角金です。梶原町で迎えた3度目の冬。梶原町では地元・青森にも劣らないほどの大雪が降りました。子ども頃の思い出が蘇り、少し懐かしい気持ちになりました。

2022年を振り返ると、町内事業者での現場研修や造林（植樹イベント）の地植えに始まり、夏には安芸市で木のおもちゃの製造・販売をしている山のくじら舎さんとツリーハウスを作りました。

秋には高知市で開催された森のイベントに、梶原の若手林業研究会「COMORI」が出演し、トークショーや木工の実演をしました。

また、11月にはハイキングイベント「ゆすはらトレイルマッププロジェクト」の第一弾を町内の鷹取山国有林で開催するなど、広い意味での森林づくりに取り組むことができたのではないかと思います。

私の地域おこし協力隊の任期も残り半年となりました。任期終了後に向けて、これまで以上に林業・森林づくりに取り組んでいきますので、2023年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



▲ゆすはらトレイルマッププロジェクトの風景